



横河電機株式会社

2026年3月期 第3四半期決算説明会

2026年2月3日

イベント概要

[企業名]	横河電機株式会社
[企業 ID]	6841
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2026年3月期 第3四半期決算説明会
[決算期]	2025年度 第3四半期
[日程]	2026年2月3日
[ページ数]	25
[時間]	18:00 – 18:58 (合計：58分、登壇：13分、質疑応答：45分)
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	1名 取締役 執行役 経理財務本部長 中嶋 倫子 (以下、中嶋)

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ポイント

■ 第3四半期実績：増収増益

サマリー 受注・売上・営業利益は、対前年で円高に推移した為替の影響を受けながらも増加

セグメント別 制御 増収増益

測定器 売上は増収、営業利益は前年同期並み

新事業他 前年同期並み

■ 通期業績予想：上方修正

■ 配当予想：増配修正

中嶋：経理財務本部長の中嶋です。それではご説明します。

資料の4ページに今回の決算のポイントを記載しています。こちらの内容を、次のページ以降でご説明いたします。

決算サマリー（前年同期比）

- ◆受注：複数の大口案件の獲得（制御事業）やAIデータセンター関連の需要増加（測定器事業）等に伴い**増加**（除・為替影響：+126億円、+2.9%）
- ◆売上：豊富な受注残を背景に**増収**（除・為替影響：+287億円、+7.0%）
- ◆営業利益：主に増収に伴う粗利増により**増益**（除・為替影響：+41億円、+7.1%）

	FY24 1Q-3Q	FY25 1Q-3Q	差 異	増減率	為替影響	(億円)
受 注 高	4,412	4,502	+90	+2.0%	▲36	
売 上 高	4,089	4,343	+254	+6.2%	▲33	
営 業 利 益	584	604	+20	+3.5%	▲21	
R O S (%)	14.3	13.9	▲0.4pt	-	-	
経 常 利 益	608	620	+12	+2.0%	▲22	
親会社株主に帰属 する四半期純利益	387	448	+61	+15.9%	▲21	
為替レート 1米ドル=	153.00円	149.41円	▲3.59円	-	-	

5 ページ、決算サマリーです。

受注は 4,502 億円と、為替の影響を除きますとプラス 126 億円、2.9%の伸長でした。売上は 4,343 億円、為替の影響を除きますとプラス 287 億円、7.0%と大きく伸長しています。営業利益は 604 億円、対前年プラス 20 億円、為替の影響を除きますとプラス 41 億円、7.1%の増益でした。

当第3四半期においては、為替レートは対米ドルで前年同期比約 3.6 円の円高となりました。業績の押し下げ要因となっていますが、豊富な受注残に加え、引き続き堅調な受注が寄与いたしまして、受注、売上、営業利益のいずれにおいても、為替影響を吸収した上で、確実な伸長となっています。

なお、営業外損益以下については前年に計上した固定資産売却益の反動減があったものの、法人税等調整額の減少が寄与し、四半期純利益は対前年プラス 61 億円の増益でした。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

営業利益分析（前年同期比）



YOKOGAWA Co-innovating tomorrow™

[February 3, 2026]
© Yokogawa Electric Corporation

6

続いて6ページ、営業利益の増減分析です。

前年同期の営業利益584億円と比較し、為替影響を除きますと、20億円の増益となっています。増減内訳といたしましては、まず増収に伴う粗利の増加が137億円、粗利率につきましてはマイナス42億円となっています。

年初から想定しておりましたビジネス構成比の変動影響が、プロジェクトビジネスの順調な売上伸長により、拡大しています。その他、制御プロダクトにつきましては、中国等において戦略的な値引きを実施しています。

また、プロジェクト案件におきましては、先行投資的な意味合いを持つものとして、工事損失の計上を伴う案件を戦略的に受注したことが影響しています。

販管費につきましては、54億円の押し下げ影響でした。この販管費の増加には、インフレによる人件費増加などのベース費用に加え、M&Aにより買収した会社ののれん等の償却や、期間費用などの先行投資的な費用も含まれています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

セグメント別 受注・売上・営業利益

- ◆制御事業 : 受注は増加 (除・為替影響 : +57億円 +1.4%)
売上は増収 (除・為替影響 : +265億円 +6.9%)
営業利益は増益 (除・為替影響 : +38億円 +7.2%)
- ◆測定器事業 : 受注は増加、売上は増収 (除・為替影響 : 受注+60億円 +25.5%、売上+15億円 +6.8%)
営業利益は前年同期並み (除・為替影響 : +5億円 +11.0%)



YOKOGAWA Co-innovating tomorrow™

[February 3, 2026] © Yokogawa Electric Corporation

7

続いて7ページ、セグメント別の受注、売上、営業利益です。

まず、青色の制御セグメントです。受注は対前年でプラス23億円、為替の影響を除きますと1.4%の伸長でした。売上はプラス265億円、為替の影響を除きますと6.9%の伸長となりました。営業利益はプラス38億円、為替の影響を除きますと38億円の増益でした。

続いて、黄色の測定器セグメントです。受注は対前年でプラス57億円、為替の影響を除くと、25%の高い伸長となっています。年初からAIデータセンター関連の受注が好調に推移していましたが、第3四半期において、比較的規模の大きい受注が集中的に計上されたことが、主な要因です。売上につきましては対前年でプラス15億円、為替の影響を除いて6.8%の伸長となっています。営業利益はプラス3億円、実質で5億円の増益でした。

緑色の新事業その他につきましては、前年から大きな変動はありません。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

制御地域別 受注・売上高

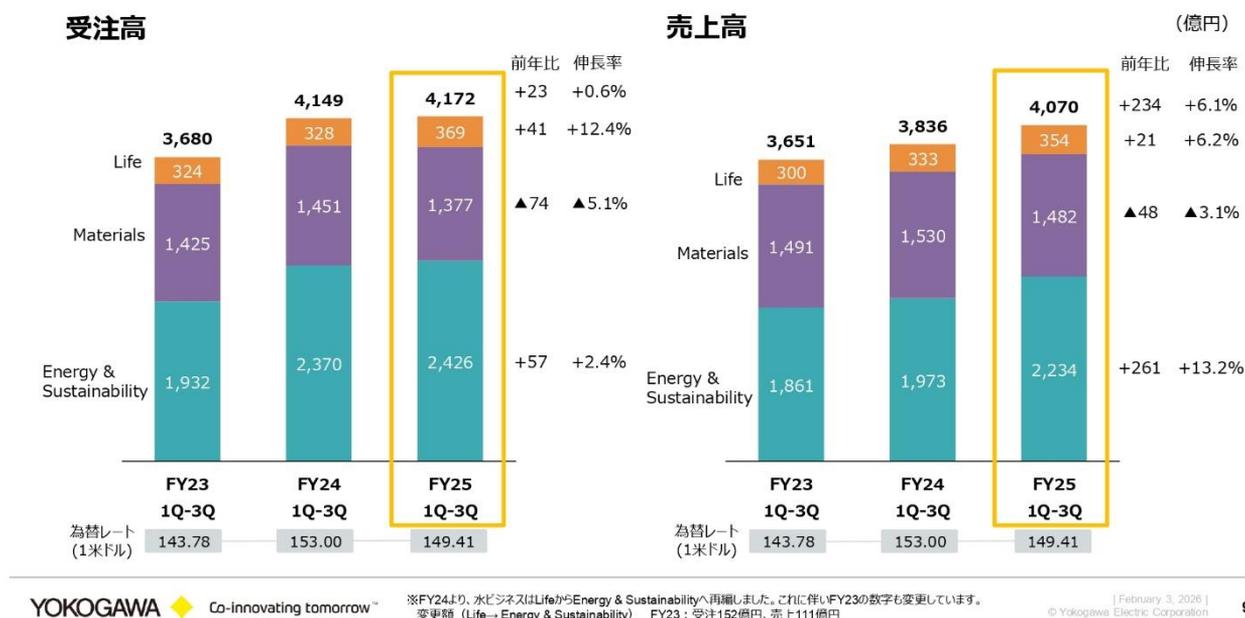
◆中東の前年同期の大口受注の反動がありながらも、主に日本での大口案件の獲得等に伴い、受注は増加

				(億円)			
受注高	FY24 1Q-3Q (A)	FY25 1Q-3Q (B)	前年同期比 (B-A)	売上高	FY24 1Q-3Q (A)	FY25 1Q-3Q (B)	前年同期比 (B-A)
日本	991	1,097	+106	日本	963	1,054	+90
アジア	1,260	1,246	▲15	アジア	1,322	1,205	▲118
(東南アジア・ 極東)	(597)	(614)	(+16)	(東南アジア・ 極東)	(614)	(580)	(▲33)
(中国)	(445)	(420)	(▲25)	(中国)	(512)	(438)	(▲74)
(インド)	(219)	(212)	(▲6)	(インド)	(196)	(186)	(▲10)
欧州・CIS	412	429	+17	欧州・CIS	381	473	+91
中東・アフリカ	1,040	914	▲126	中東・アフリカ	649	826	+177
北米	325	333	+9	北米	374	374	▲1
中南米	120	152	+32	中南米	145	139	▲7
海外小計	3,157	3,075	▲83	海外小計	2,873	3,016	+143
合計	4,149	4,172	+23	合計	3,836	4,070	+234
為替レート 1米ドル=	153.00円	149.41円	▲3.59円	為替レート 1米ドル=	153.00円	149.41円	▲3.59円

続いて 8 ページ、制御セグメントの地域別の受注、売上です。

表の左側の受注につきましては、今年度は中東の大口プロジェクトの反動減が出ています。こちらは年初から想定していたものでしたが、日本における大型案件の獲得等もあり、全体では 1.4% の伸長を確保しました。

制御サブセグメント別 受注・売上高



続いて9ページ、制御の業種セグメント別の受注、売上です。

受注について、左側のグラフの緑色の Energy & Sustainability は、対前年プラス 57 億円、為替の影響を除くとプラス 81 億円、3.4%の伸長でした。

前年同期にはサウジアラビア向けの大口受注が集中して計上されておりましたが、当四半期はその反動減がありました。一方で、同じ中東地域でも UAE などにおいては複数の大型プロジェクトを獲得しました。さらに、日本、ASEAN、米国などの幅広い地域で大口受注が増加し、挽回しています。また、小口受注につきましても、引き続き順調に推移しています。

続いて、真ん中の紫色、Materials です。こちらは 74 億円、為替の影響を除くと 65 億円、4.5%の減少となっています。

Materials 事業の比率が高い中国における経済減速の影響を強く受けていることに加え、日本、韓国、ASEAN などの周辺地域や欧州など、幅広い地域において、化学分野での投資が弱含んでいます。この分野につきましても、長期的には高機能化学などを中心に、投資拡大の方向感自体は変わらないと見ていますが、今年度においては、先述のとおり、経済減速の影響が波及した結果、基礎需要の減退により、全体としてマイナスの影響が出ています。

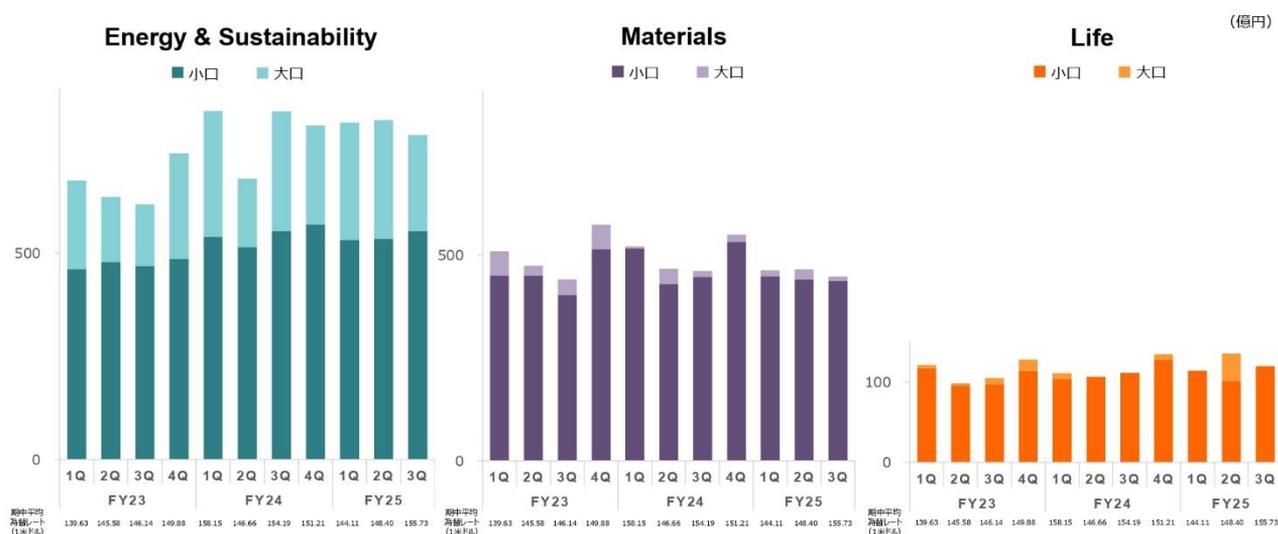
最後に、オレンジ色の Life です。こちらは対前年プラス 41 億円、為替の影響を除いても同額で 12.6%の伸長でした。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

前回の第2四半期決算説明でご報告いたしました、中東の大型緑化プロジェクトの影響があるものの、その影響を除いても、全般的に堅調な業種セグメントとなっています。国内の食品・医薬品向けが引き続き好調であるほか、ライフサイエンス分野におきましても、お客様から高い評価をいただいております。欧州などで伸長しています。

制御サブセグメント 規模別受注



YOKOGAWA Co-innovating tomorrow™

※小口：3億円/3MUSD未満の受注。主にMROやSystem upgradeなどのDOPEX
大口：3億円/3MUSD以上の受注。主にシステムの導入などのCAPEX

[February 3, 2026] © Yokogawa Electric Corporation 10

続いて10ページ、業種セグメント別の四半期ごとのトレンドを、大口案件と小口案件に分解して示しています。

Energy & Sustainability につきましても、大口案件の集中による変動が見られる一方で、小口受注は安定的に増加しています。

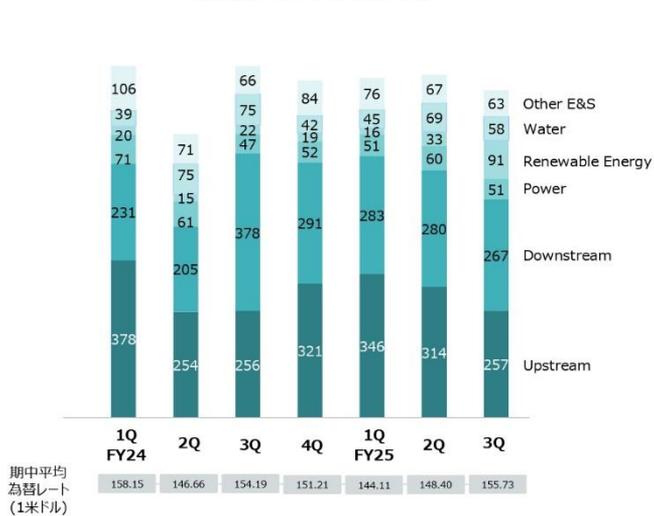
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



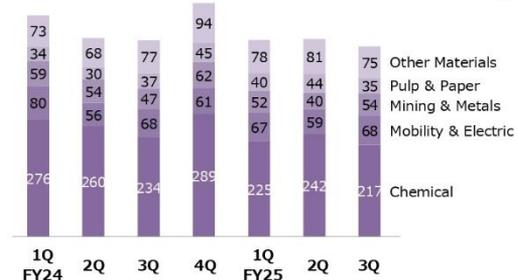
制御業種別 受注

Energy & Sustainability

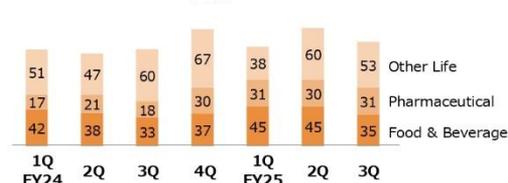


Materials

(億円)



Life



続いて 11 ページ、3 業種セグメントをさらに細かく分解して四半期トレンドを示しています。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



FY25業績予想（修正あり）

- ◆為替レート前提の見直し（1USD=145.00円 ➡ 150.00円）
- ◆3Qまでの実績と今後の見通しを踏まえて修正

(億円)	FY24 (A)	FY25予想 11/4(B)	FY25予想 2/3(C)	前回予想比 (C-B)	前年比 (C-A)	伸長率 (C/A-1)
受注高	5,986	5,970	6,150	+180	+164	+2.7%
売上高	5,624	5,770	5,950	+180	+326	+5.8%
営業利益	835	830	870	+40	+35	+4.2%
R O S (%)	14.9	14.4	14.6	+0.2pt	▲0.2pt	-
経常利益	854	830	870	+40	+16	+1.9%
税引前利益	785	810	850	+40	+65	+8.2%
法人税等	264	265	255	▲10	▲9	▲3.4%
親会社株主に帰属 する当期純利益	521	545	595	+50	+74	+14.2%
EPS(円)	200.41	213.56	233.15	+19.59	+32.74	-
為替レート 1米ドル=	152.55円	145.00円	150.00円	+5.00円	▲2.55円	-

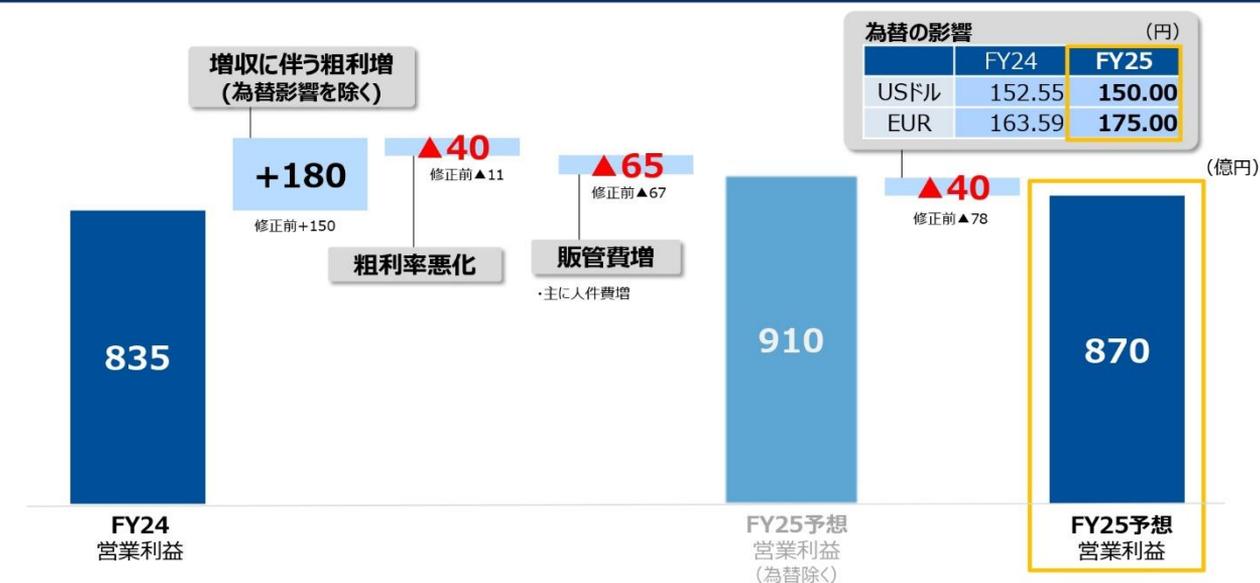
12 ページ以降は、年間の業績予想に関するスライドが続きます。

今回は、業績予想の前提とする為替レートを、年間の米ドル円で 145 円から 150 円に見直しています。今後の為替レートが 155 円で推移した場合、年間平均では 150.7 円となりますので、ほぼ実勢レートを織り込んでいるとご理解ください。また、前提となる為替レートの見直しに加え、実質的な修正として、受注でプラス 50 億円、売上につきましても、同額を見込んでいます。利益につきましても、法人税等の見直しに伴い、当期純利益でプラス 10 億円を織り込んでいます。なお、為替影響を含む総額での修正額につきましても、こちらの資料に記載している前回予想比のとおりです。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

営業利益分析 予想（修正あり）



YOKOGAWA Co-innovating tomorrow™

[February 3, 2026] © Yokogawa Electric Corporation 13

続いて13ページ、営業利益の増減です。

為替の影響を除く修正につきましては、先述のとおり、売上の上方向修正を反映し、増収に伴う粗利増を、従来の150億円から180億円へ、30億円上方修正しています。一方で、第3四半期までの実績および第4四半期の見通しを反映し、粗利率の悪化についても同額を織り込んでいます。足元では収益水準が切り上がっていることもあり、先ほども少し触れましたとおり、先行投資的な意味合いを持つ、工事損失の計上を伴うプロジェクト案件の受注について、戦略的な取り組みを積極的に進めている状況を反映しています。

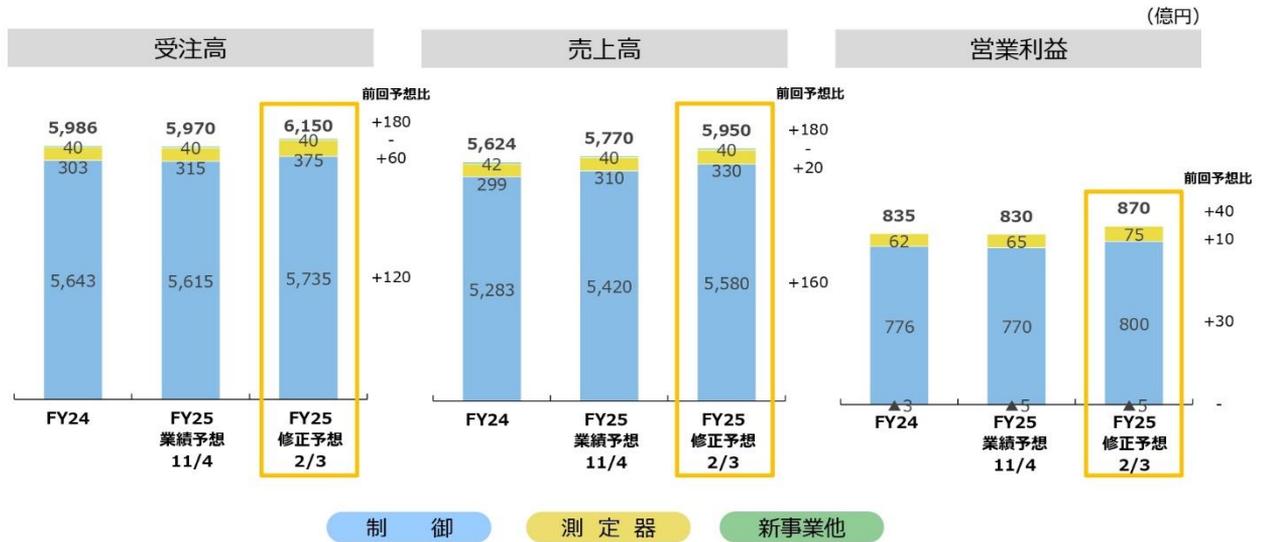
販管費につきましては、ほぼ端数の調整のみで、実質的な修正はありません。これらの増減に加え、為替見直しによる改善を織り込み、当期の営業利益予想は870億円としています。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



セグメント別 受注・売上・営業利益 予想（修正あり）



YOKOGAWA ◆ Co-innovating tomorrow™

[February 3, 2026] 14
© Yokogawa Electric Corporation

続いて 14 ページ、セグメント別の受注、売上、営業利益です。

為替の影響を除く実質的な修正につきましては、受注について、AI データセンター関連受注の好調を織り込み、測定器セグメントにおいてプラス 50 億円の修正を行っています。売上につきましては、制御セグメントでは、主にプロジェクトの順調な売上進捗を織り込み、プラス 40 億円の修正としています。また、測定器セグメントでは、プラス 10 億円の修正としています。

営業利益につきましては、先述のとおり、実質修正はありません。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

制御地域別 受注・売上高 予想（修正あり）

◆ 受注は、3Qまでの実績と今後の見通しを踏まえて修正

(億円)

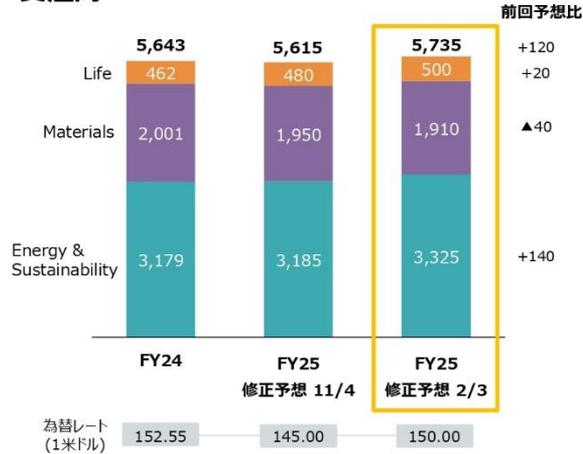
受注高	FY24 (A)	FY25予想 (B)	前年比 (B-A)	売上高	FY24 (A)	FY25予想 (B)	前年比 (B-A)
日本	1,388	1,510	+122	日本	1,355	1,465	+110
アジア	1,657	1,645	▲12	アジア	1,735	1,590	▲145
（東南アジア・ 極東）	(792)	(800)	(+8)	（東南アジア・ 極東）	(810)	(775)	(▲35)
（中国）	(571)	(540)	(▲31)	（中国）	(640)	(540)	(▲100)
（インド）	(294)	(305)	(+11)	（インド）	(284)	(275)	(▲9)
欧州・CIS	606	635	+29	欧州・CIS	526	630	+104
中東・アフリカ	1,313	1,220	▲93	中東・アフリカ	968	1,205	+237
北米	497	505	+8	北米	504	505	+1
中南米	182	220	+38	中南米	194	185	▲9
海外小計	4,255	4,225	▲30	海外小計	3,928	4,115	+187
合計	5,643	5,735	+92	合計	5,283	5,580	+297
為替レート 1米ドル=	152.55円	150.00円	▲2.55円	為替レート 1米ドル=	152.55円	150.00円	▲2.55円

続いて、15 ページは制御セグメントの地域別です。

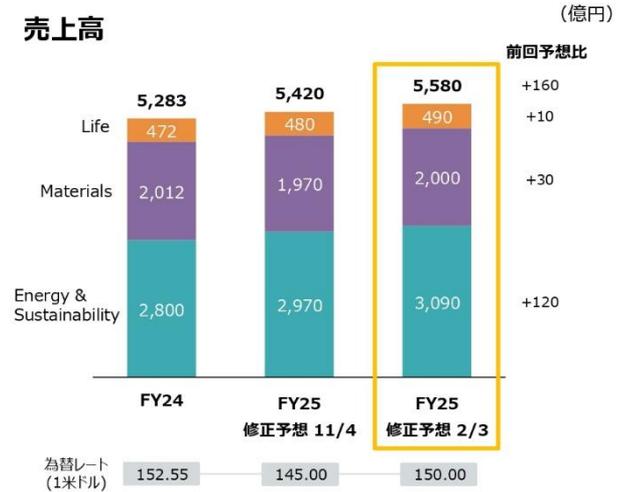
為替見直しに加え、第3四半期までの実績を踏まえた修正を行っています。

制御サブセグメント別 受注・売上高 予想（修正あり）

受注高



売上高



16 ページは業種別です。

こちらにつきましても、実質的な修正として、Energy & Sustainability では受注でプラス 70 億円、売上でプラス 50 億円を見込んでいます。Materials では、受注で 80 億円の減少、売上で 10 億円の減少としています。また、Life におきましては、受注でプラス 10 億円の修正を行っています。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

株主還元（修正あり）

◆増配（期末配当金32円→46円、年間配当金64円→78円）

<配当>



<自己株式の取得>

- ・2025年12月末日で取得終了
- ・取得した自己株式の累計株式の総数：5,585,800株
株式の取得価額の総額：171億円（上限200億円）

YOKOGAWA Co-innovating tomorrow™

※ グラフの「総還元性向」には、自己株式の取得による影響を含めています。

[February 3, 2026]
© Yokogawa Electric Corporation

17

最後に、17 ページの株主還元についてご説明いたします。

こちらにつきましては、業績の見通しおよび財務状況等を踏まえ、今回、期末配当金について一株当たり 14 円の増配修正を行います。増配後の年間配当金は一株当たり 78 円、配当性向は 33.5%、自己株式の取得と合わせた総還元性向は 55.3%となっています。

私からのご説明は以上です。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



質疑応答

[Q]：営業利益増減要因の中の粗利率の悪化についてですが、3Qの3カ月で31億円ぐらいマイナスが出ており、年間計画もちょうど30億円ぐらい引き下げられています。要因としてプロジェクト売上の増加、中国でのプロダクトの戦略値引き、工事損失引当などのご説明がありましたが、それぞれの金額はいくらぐらいか教えてください。また、来期は改善が見込めるのか、それとも同じぐらいなのか、など来期の見込みについても教えてください。

中嶋 [A]：ビジネス構成比の変動影響については、3Qまでで約20億円のマイナスです。年間では25億円程度のマイナスを想定しています。悪化幅が4Qで少し縮まる理由は、前年度4Qにプロジェクトの売上が伸びていたため、残りの期間ではそれほどビジネス構成比の変動影響が大きくないと見込んでいるためです。従来予想からは10億円ほどのマイナス要因となっています。

プロダクトの値引きについては、3Qまでで15億円強の押し下げ要因となっています。年間では20億円のマイナスを想定しています。この項目は、年初の段階では想定していなかったもので、全体として従来予想から20億円程度のマイナス要因となっています。ただし、こちらに関しては、値引きにより受注ボリュームを確保することを意図しており、しっかり検証しながら進めている状況です。

米国関税影響については、3Qまでで約7億円のマイナスです。年間では少し丸めて10億円のマイナスを想定しています。年初では15億円程度のマイナスを想定していましたので、こちらは5億円程度の改善になっています。

工事損失を伴うような戦略的なプロジェクトの受注に関しては、3Qまでで5億円強の押し下げ要因になっていますが、こちらは年間で約10億円程度のマイナスを少なくとも想定しています。ただし、こちらに関しては投資的な要素もありますので、しっかりリターンを検証する中で、さらに獲得すべき案件があればしっかり獲得していきたいと考えています。したがって、一旦は10億円程度のマイナスを想定しており、年初からの比較でも10億円の押し下げ要因になっています。

それ以外は若干のプラス要因がありまして、全体としては約30億円程度の減少を織り込んだ形です。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

[Q]：この3Qの3カ月で粗利率悪化による粗利の減少が大きく出たように見えますが、3Q3カ月に値引きや工事損失が偏って生じたということでしょうか。また、値引きの背景については、競争環境が厳しいからなのか、あるいは操業度などを踏まえた総合的な判断によるもので、別に競争環境が急に変わっているわけではないのか、いかがでしょうか。

中嶋 [A]：まず、プロダクトの値引きについては、上期の段階で10億円には届かない程度の影響がすでに出ていました。したがって、今回3Qに限って突発的に発生したものではなく、上期から継続して発生しているものです。

値引きの背景に市況の悪化があるのかという点については、中国の経済環境に触れたとおり、全体の需要が縮小し、お客様の投資姿勢も厳しくなる中で、競合各社も価格を下げてシェアを取りにきています。これに対して当社としても、工場の稼働状況も踏まえ、追加投資を伴わずに生産できる範囲であれば、シェアを落とさないよう戦略的に価格を調整しています。

また、値引きはマーケット全体に一律で行っているものではありません。国別、機種別、機種の中でもさらにモデル別の競争力を精査したうえで、戦略的に判断しています。この点については、年初の段階ではそこまでの影響を想定していませんでした。加えて、大口のプロダクト案件が3Qに複数集中し、ボリュームディスカウントが発生したことも、値引き影響の一因となっています。

戦略プロジェクトに伴う工事損失については、どの案件がどのタイミングで計上されるかによって粗利が悪化する時期が変動します。上期では前年比でプラスに寄与していた一方、3Qではしっかりと案件が獲得できたため、マイナス方向に効いています。さらに4Qにおいても、戦略的な受注に伴う一定額の損失を見込んでいます。

[Q]：来年度の受注、売上、利益の考え方について、可能な範囲で教えてください。

中嶋 [A]：現時点では定量的な見通しをお伝えすることは難しいですが、まず受注については、Energy & Sustainabilityを中心に堅調なパイプラインがあり、一定程度の積み上げを想定しています。Materialsは基礎需要がいつ戻るか不透明な部分がありますが、インドのように経済成長が続く、追加投資が必要な市場もあり、そうした地域はしっかり取り組みたいと考えています。

売上については、しっかりと受注残が積み上がっているため、これを確実に消化することで十分な成長が見込めると考えています。受注のパイプラインは堅調で小口案件も安定して受注できているため、大きな変化が起きることは想定していません。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com

利益について、プロダクト値引きやビジネス構成比の変化は、今年度が最も大きく影響した年と考えており、ここからさらに大きく変動することは現時点では想定していません。また、米国関税影響については、この下期から価格転嫁が進み、マイナス影響はほぼなくなってきたため、今年度の上期に悪化した分については来期の改善要因になると想定しています。戦略的プロジェクトの工事損失については、現時点で増減を申し上げる段階ではありませんが、獲得すべき案件はしっかり取りにいく姿勢です。

[Q]：今回の業績予想の受注・売上の入り繰りについて、為替を含めてどのように修正したのか、数字を整理して教えてください。

中嶋 [A]：受注は、測定器事業で実質的な上方修正として+50億円を織り込みました。それ以外は為替影響で、制御事業+120億円、測定器事業+10億円、結果として全社で+130億円を見込んでいます。制御事業の業種別では、実質修正として Energy & Sustainability が+70億円、Materials が▲80億円、Life が+10億円です。為替影響は Energy & Sustainability +70億円、Materials +40億円、Life +10億円です。

売上については、制御事業で実質+40億円、測定器事業で+10億円、為替影響は制御事業 +120億円、測定器事業+10億円です。制御事業の業種別では、実質で Energy & Sustainability +50億円、Materials▲10億円、Life は変更なしです。為替影響は受注と同様です。地域別については割愛させていただきます。

[Q]：今回増配を発表されましたが、為替の影響を除けば計画据え置きの中で増配を決めた背景を教えてください。また、コーポレートガバナンスコードの改定など昨今のガバナンス議論において企業の現預金保有の妥当性に焦点が当たる中、社内でどのような議論があったのか、可能な範囲で教えてください。

中嶋 [A]：配当還元は、総合的に勘案して判断しています。営業利益は実質的には据え置きですが、為替影響により利益は 2Q 決算発表時・3Q 決算発表時とも上方修正となりました。円ベースでこれだけ利益が増加している点を踏まえると、配当性向の観点からも増配すべきと判断しました。現預金は為替による押し上げもあり増えていますが、当社としては M&A など戦略投資に資金を充てるのが最優先と考えています。その上で、自己株式の取得や利益に応じた配当など、全体のバランスを考えて株主還元を行っています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[Q]：3か月前と比べて、制御事業を中心とした需要環境にどのような変化があったのか教えてください。

中嶋 [A]：基本的な環境認識は、2Q 時点から大きく変わっていません。ただし短期的には、中国や Materials の事業が厳しくなっています。これは想定範囲内ですが、日中関係や米中関税などの不確定要素の影響が現れてきたものと捉えています。一方で、エネルギー関連は引き続き市場が堅調で、当社の受注も順調です。

[Q]：LNG プロジェクトの引き合い状況やパイプラインについてアップデートをお願いします。

中嶋 [A]：LNG 関連については、引き続き投資意欲は堅調です。個別案件には触れられませんが、需要は強いと認識しています。

[Q]：営業利益増減の粗利率要因の来期の見通しについて教えてください。関税の価格転嫁は改善要因ですが、プロダクト値引きやビジネス構成比の変化を踏まえると、来期のトータルの数字としてはどうなる想定でしょうか。

中嶋 [A]：プロダクトは足元で厳しい状況が続いている一方でプロジェクトは堅調なため、現状ではビジネス構成比は大きく変化しないようにも考えられます。ただし、プロダクトに関しては受注から売上までのリードタイムが短いといった要素もあり、現時点で来期の方向性を予測するのはなかなか難しいところです。我々としては、プロダクトもプロジェクトも伸ばして、ビジネス構成比のバランスを今年度から大きく変えないよう努めたいと考えています。

値引きについては、今年度の 1Q 時点ではあまり影響が出ていなかったため、その分は来期のマイナス要因となる想定です。ただし、値引きはマーケット、機種、モデルごとにきめ細やかに調整しており、状況を見ながらトータルで会社にとってのリターンが最大になるように最適化に取り組んでいきたいと考えています。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptasia.com

[Q]：今回見直された業績予想では、4Q3 か月の受注が 1,650 億円程度になると思います。制御事業も測定器事業も大きく増加する見込みですが、制御事業については確度の高い数字なのでしょうか。

中嶋 [A]：受注は、どのタイミングで受注計上に必要なドキュメントが揃うかによって、計上時期が今年度になるか来年度にずれるかが変わります。そのため、そのような大型案件が複数重なると数字はある程度変動します。数字は上下どちらにも同じくらいの振れ幅がありますが、そのレンジの真ん中を今回の予想として置いています。

[Q]：残り 3 カ月の段階だと、そのレンジの中央値の確度はかなり高まっているのでしょうか。

中嶋 [A]：プロジェクトに関しては、お客様側の処理や手続きなどのタイミングで受注の計上時期が変動しますので、依然として上下に振れる可能性があります。

[Q]：トレンドあるいはモメンタムとして受注は上向いていると考えてよいでしょうか。

中嶋 [A]：大口プロジェクトの受注タイミングについて、例えば Energy & Sustainability の大型案件は四半期ごとにある程度変動していますが、トレンドとしては堅調です。その上で、3Q から 4Q にかけて計上のタイミングにより押し上がっている部分もあります。

[Q]：測定器事業も 4Q でかなり増加し、通期でもかなり伸長する想定です。この中で AI データセンター向けは受注のどれくらいの割合を占めますか。また、来期もこの水準が継続するのでしょうか。

中嶋 [A]：今回の受注予想のうち、約 10～20% 程度が AI データセンター関連と理解しています。ただし、間接的な受注まで含めると線引きは難しいです。来年の水準については、現時点ではなかなか読めないところです。AI 関連投資は変動も激しいと見ており、もう少し様子を見たいところです。

[Q]：3Qの受注、売上、利益は社内想定に比べてどうでしたか。

中嶋 [A]：今回の業績予想の修正内容が、従来予想に対して3Qで見えてきた変化です。売上は2Q時点でも少し上振れを想定していましたが、そのとおり順調に進捗しました。一方で、好調さを背景に、戦略的に赤字を出してでもプロジェクトを獲得する取り組みも強化しています。上振れ部分と、意図的に投資している部分が両方出てきている状況です。

[Q]：制御事業の売上進捗が2Qから上振れ感があり、今回は実質で+40億円修正されています。これはプロジェクトとプロダクトのどちらの進捗が想定より進んだのでしょうか。

中嶋 [A]：全体としては、プロダクトの進捗はマイナスで、プロジェクトの進捗は非常に堅調です。1Qの受注が堅調だったことに加え、期初段階の受注残も計画どおり売上計上されており、プロジェクトが押し上げ要因となっています。

[Q]：粗利率悪化要因について、プロダクトとプロジェクトのディスカウントの影響はそれぞれ同程度と考えればよいでしょうか。

中嶋 [A]：それぞれの影響額は異なります。プロダクトの値引きに関しては、3Qまでで15億円強、年間で20億円程度の悪化要因です。プロジェクトの工事損失に関しては、3Qまでで5億円強、年間で10億円の悪化要因ですが、良い案件があればそれ以上の押し下げとなってもしっかり案件を獲得したいと考えています。

[Q]：大口案件のボリュームディスカウントの件は、中国のプロジェクトに関するものでしょうか。以前、中国EPCの輸出案件にも取り組むという説明がありましたが、関連しているのでしょうか。

中嶋 [A]：プロダクトのボリュームディスカウントに関しては、中国というより、例えば中東、欧州、ASEANなどです。また、OEMもあります。ただし、これらの影響金額についてはそれほど大きくありません。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com



[Q]：販管費について、人財採用の投資を進めたいとのことでしたが、現在の進捗と来期の方針を教えてください。

中嶋 [A]：本当はもっと費用を増やしてでも人財採用すべきと考えています。SME の採用も進めています。十分な採用には至っていません。また、SME 以外についても、事業推進に必要な人財の強化にはしっかり取り組んでいく必要があると考えています。来期も引き続き人財採用を強化していく予定です。

[Q]：営業利益増減の予想における粗利率悪化について、▲40 億円の内訳を確認させてください。値引き▲20 億円、工事損失引当▲10 億円、関税▲10 億円、ビジネス構成比の変動影響▲25 億円ですが、マイナスを打ち消すプラス要因は何でしょうか。

中嶋 [A]：特定の大きな要因があるわけではありません。ビジネスボリュームが全体として増えており、効率性や稼働率の改善が進んでいます。また、前年度 4Q に利益率の低い案件の売上計上があった反動もあります。これらを踏まえると、年間で+20 億円強の改善があると想定しています。

[Q]：通期計画について、その 20 億円程のプラスは元々の想定どおりで、今回新たに出てきたのが値引きと工事損失引当の影響という理解でよいでしょうか。

中嶋 [A]：そのとおりです。新たに出てきたのは値引きと工事損失引当です。そして関税については若干の改善要因となります。また、ビジネス構成比も想定より前倒しで変化しており、ここは従来比で 10 億円程のマイナスを織り込んでいます。

[Q]：工事損失引当が新たに生じた場所は中国ですか。

中嶋 [A]：中国では Materials 分野で戦略的に取りにいった案件がありました。その他の地域でもいくつかありますが、4Q で見えている比較的大きな工事損失引当は中東です。複数年かけて CAPEX が発生し、その後の OPEX でも長期にわたりビジネスが見込める案件です。その初期フェーズを押さえることが非常に重要で、ここを戦略的に取りにいています。なお、3Q までの工事損失引当は、1 件あたりの金額はそれほど大きくありません。

[Q]：4Q で工事損失引当が予定されている中東の案件はガス関連でしょうか。それとも以前ご紹介いただいたサウジアラビアの大型プロジェクト関連でしょうか。

中嶋 [A]：お話しすると案件が特定されてしまうため詳細は控えます。

[Q]：SMR（小型モジュール炉）について Rolls-Royce SMR 社との協業の発表がありました。御社の原子力事業の規模はどれくらいでしょうか。

中嶋 [A]：長年、国内を中心にプロダクト領域で取り組んでいますが、当社の原子力事業の規模は大きくありません。その中で、今回 Rolls-Royce SMR 社にご評価いただき、パートナーに選ばれたことは大きな意味があります。ここからしっかりとビジネスを作っていく段階だと考えています。

[Q]：中東の制御事業について、来期以降の見通しを教えてください。特にサウジアラビアや UAE で引き続き堅調な受注が見込めるのでしょうか。また、Life 事業では 2Q にグリーンリヤドの大口案件を獲得していますが、来期以降も同規模の案件が期待できるのかについても教えてください。

中嶋 [A]：具体的な数字を伴うお話は現時点では難しいのですが、案件は多数見込まれていますので、その前提で来期の地域別の見通しを作っていきます。グリーンリヤド級の大型案件については現時点では認識していません。まずはこのプロジェクトをしっかりと遂行し、その実績を基に横展開していくことが重要と考えています。

[Q]：測定器事業について、AI データセンター関連で受注、売上が伸びていますが、具体的にどの製品が伸びているのか教えてください。また、競合も伸びていますが、競争環境はどのようになっていますか。

中嶋 [A]：AI データセンター関連では、光トランシーバー向けの「光スペクトラムアナライザー」が堅調です。また、AI データセンターは消費電力が非常に大きく、電力効率化が重要ですので、電源システムを支える「パワーアナライザー」も堅調です。競争環境については、幅広いラインナップを持つ競合は多いですが、分野やスペックで住み分けが進んでおり、それぞれが得意領域でビジネスを獲得している状況です。当社も得意分野で確実に受注できている状況です。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

[Q]：戦略的な値引きによる受注についてですが、新規の大口顧客を取りに行くための値引きが中心だったのでしょうか。それとも既存顧客を維持するための値引きも一定程度あったのでしょうか。また、値引きは欧米系の競合に対抗したものが多かったのか、通常と比べてどれくらいの値引き幅だったのか、感覚的に教えてください。

中嶋 [A]：値引きについては、ご指摘いただいた全てのパターンが該当します。当社と取引関係の深いお客様に対して、競合他社が入り込まないよう値引きする場合もあれば、競合他社が押さえられているお客様に対して、突破口を作り巻き返しを図るために値引きする場合があります。また、新規の開発区画などは競合他社も必ず狙ってきますので、開発フェーズが複数に分かれている大型開発では、初期フェーズを押さえるために思い切った価格を提示する場合があります。競合他社については、皆様のご想像されるようなグローバルプレーヤーが中心です。案件ごとに値引きの理由は異なりますが、いずれの場合も将来的に十分なリターンが確保できるか精査した上で判断しています。

[了]

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com